

<雨は心まで濡らす> '08春 2日目：日向～南宮崎 71km

4月23日水曜日、3:30に目覚める。フロントの情報によると、午前中は降水確率0%とのこと。今日は、午前中勝負といきたい。

いつものことだが、起きた時は体が強張っていて走れるはずがないのに、ワセリンを塗って着かえている内に体と気持ちが解れていき、行かなくっちゃという覚悟ができる。リュックのストラップをカチャリと締めると、体が動くから不思議だ。

5:00にホテルを出て、コンビニでおにぎりを3個買いリュックに詰めた。500m程走って10号線にでる。標識に、宮崎68kmとある。南宮崎まではさらに3kmあるから、71kmの行軍だ。昨日より15km短い、楽観視は一切していない。11km先の美々津大橋を渡ると、宮崎市街地に入るまでの約50kmは、何の変哲もない道路だからだ。車で何回通ってもうんざりする。気が重くなる。

更に悪いことには、私のジャーランには2日目のジックスというやつがある。2日目が一番きついのは言うまでもないが、この日には、何かケチのつくことが必ず起きるのだ。

去年のスマイルランでは、富士市でおまわりさんに嘘を教えられ、5kmも余計に走るハメになった。一昨年は岡山市でのこと。日産マーチが目の前でエンストし、交差点を塞いだ。性格上、見て見ぬ振りができるわけがなく、疲れた体に鞭打って後ろから押してやった。マーチとはいえども一人では重く、腰を痛めて残りの10kmは散々だった。

今日は何もないでくれ！と祈りつつ、まだ明けやらぬ道を懐中電灯を頼りにノロノロ進んだ。明らかに足取りが鈍い。歩道は工事中だらけで、車道もトラックがガンガン飛ばすから走ることができない。早くも焦りだした。

太平洋ドライブインで日の出を迎えた。若い頃は、ここまでよく初日の出を見に来たものだ。ここから見る日の出は、相変わらず様になるなあ、と一時の感傷に浸った。

耳川を渡り美々津町に上がると、川南町を過ぎるまではほぼ一直線の日向街道だ。日は昇り気温が上がり、知らず知らずの内に休憩が多くなる。コンビニに寄っても鉄則を忘れ、食べるのに時間がかかる物に手を出してしまう。セブンイレブンのあんみつ(¥400)はとってもうまかったが、食べあげるのに5分かかった。

高鍋町に下りてゆく坂でパラパラ落ちてきた。まだ10時やのに、天気予報の嘘つきめ！高鍋大橋を渡り、市街地を抜けて左手に焼酎工場を見ながらまた短い橋を渡ると、南九州大学への入口がある。ここでドツと落ちてきた。カップを着るが止みそうにもない。小降りになるまで、軒先を借りて雨宿りをした。20分程で小降りになり出発するが、ここの山沿いの7km直線も気を滅入らせた。

新富町に入り、また雨脚が激しくなった。簡易カップでは防ぎきれない。内側に浸み込んでくる。最寄りのローソンで昼食、おいなりさんを食べた。その甘辛さで体が温まる。あと25kmだ、さあ行くとするか。

長い日向大橋を渡ったところで、痛恨のミスを犯した。後で分かったことだが、平坦な下

の10号線を行けばいいのに、小刻みなアップダウンの多い上の10号線(一ツ葉道路に通じる方)に入ったのだ。車で何度も通ったことがあるので、高を括ってろくに地図を調べなかったからだ。車なんかアテになるもんか。

その上の道で、やっぱり2日目のジnkスの演出が待っていた。歩道に突き出た竹の切り残りを除け損ない、カッパの右肩口を破ってしまったのだった。それでなくても、篠突く雨が体に浸み込んでいる。これがダメ押しになった。

それでも5km進み、下の10号線と合流して宮崎市街に入った。もうしばらくして、残り10km地点、パタッと足が止まった。沿ってあるコインランドリーに飛び込み、ドッカとイスに腰を下ろさせてもらった。アンダーシャツまでジトジトで寒い。悪寒までしてくる。時刻は15:00、このまま歩いても17:00過ぎには着けると思うが、この状況では確実に風邪をひいてしまうだろう。それに、心が萎えてきた、もう濡れたくはない。雨から心をも濡らされてしまったのだ。

ジャーニーランでは、こういうことは多々ある。独りの時は、ウジウジは禁物だ。中止する勇気が不可欠である。「明日があるさ」と考えればいい。

こうと決まれば、私は行動が速い。近くに日向住吉駅があり、電車に飛び乗った。

一旦やっつけてしまえば、私は忸怩たる思いは捨てる。南宮崎レマンホテルに着き次第、風呂に入って500mlを空ける。走る間中、ビールが頭から離れたことはない。フィニッシュしたらビールが飲める、ほとんどそのことだけを考えていると言っても過言ではない。

ホテルの向かいのコインランドリー、待ちの間、隣のラーメン屋で腹ごしらえをしとこうと思い、あまり期待せずにラーメンを注文した。ところが、これがうまいって何のって最高だった。ビールも中瓶2本を頼んだら、ツマミが出てくるわ出てくるわで、旅ってこれだから止められないね。ドライをしている間にもう一度戻って、また一杯食べた。

それでも飽き足らず、ホテルの居酒屋でサービスの生500mlと冷汁、鶏のタタキを頂いた。独りだと、食べるのも飲むのも速い。そそくさと部屋に上がり、19:30には寝た。その前に長男の道範に連絡をとったが、ビックリすると同時に、私の独りジャーニーランに難色を示した。自身もウルトラとジャーニーをかじっているもので、独りでやることの危険性を感じたらしい。家族にそういう意見を言える者がいるってことは、なんて心強いことだ。息子に叱られながらも、「俺はどんだけ幸せなんだ。我儘親父を許せ。」と呟きながら眠りに落ちていった。

南宮崎レマンホテルは¥3700で、風呂は狭いが寝るには十分だ。周りには店がたくさんあり、ジャーニーランには最適の宿だった。

私のジャーニーランへの適性最たるものは、胃袋である。途中で、胃だけはへこたれないし、万が一の時のために持っているガスター10も、さっぱり必要ない。見よ！この食欲を。体重は減らんで増えとんので。どんなもんじゃい。

